

たぐろ

TAKUSUI
No. 680

兵庫の漁業人のための情報誌

6

June. 2013

発行 財兵庫県水産振興基金



全国漁業代表者集会のデモ行進（東京）

燃油高騰の窮状を訴える

本県・全国で漁業者が集結

各団体で総会開催

ようこそ

「ずっと真っ直ぐに」

（ようこそとは航海用語で「直しく候の意。主に船を直進させるとききの号令として使われる」）

♪花は花は花は咲く、私は何を残しただろう…♪

兵庫県農政環境部農林水産局水産課 副課長 **高木 英男**



東日本大震災の復興に架ける歌が心に響きます。今回拓水に、私の拙い文書を書いていただけたので、水産技術職としての県庁勤めも今年で30年目となりつつも、未だ前のめりに迷走の日々を送っている我が身の原点を振り返ってみたいと思います。思えば北海道で過ごした遙か学生時代、恩師である上野元一先生の「遠洋漁業論」という講義で、捕鯨問題を教わったことが職業として公務員を志した起点となりました。当時起こった、アメリカをはじめとする捕鯨をしていない国が、自国への政治アピールの道具として一方的に捕鯨禁止を強要する構図が悔しくて、大学卒業したら日本の漁業を守る仕事がしたいと、青臭い若造なりに誓ったことを覚えてい

ます。またその頃、中学生の可愛い女の子の家庭教師をしていたのですが、その子の親父さんが、当時アメリカの200海里内で高い入漁料払って操業していた銀ダラ延縄漁船（499トン）の船長さんでした。帰郷された折には、北洋での漁業の話聞かせていただき（操業中のビデオも見せてもらいました）、私が水産の公務員を目指している話をする、とても応援して下さい、思いを託されたことを思い出します。

家庭教師先では、家族同様の扱いをもらって、いつも晩ご飯をご馳走になり、漁師でなければ食べられない「銀ダラのかまの塩焼き」をよく食べさせてもらったのですが、これが本当に美味かったです。しかし、今でも残念で悔しいのは、銀ダラ延縄漁業はその後に、アメリカ200海里から撤退を余儀なくされました。私はそれを止める役には立てませんでした。隆盛を極めた遠洋漁業がどんどん行き先を失い、今振り返れば日本の漁業が大きく変化していった時代です。

私の方は大学同窓の友とともに公務員試験の勉強をし、国には縁がなかったものの、幸いにして兵庫県に入れてもらうことができました。当時の県の水産課長のちの振興基金の専務で、昨年お亡くなりになった満尾さんでした。面接を受けた時の温かい応対が心に残っていて、兵庫県に入ってから今も思います。

なお、同窓の友は、水産庁に入り、そろそろ役職につきつつあるところ。あれから30年、自分なりに兵庫県の水産業のため一生懸命に働いてきたつもりではあるのですが、少しは何かを残せたかなと思う自負もあれば、逆に多くの失敗をして迷惑をかけた恥ずかしさと反省も同じくらいあります。でも自分の生き方が今更変わるものではなく、前を向いて一つでも二つでも、何かできることがないかと思う毎日です。

人の一生は短く、一人の人間ができることは多くはないのですが、馬鹿の一念、この世界で生きていこうと決めたあの日が今に繋がっています。公務員生活も、残り10年を切って、おぼろげにゴールが見えてきているのですが、どっこいまだまだ奮闘しますので、どうか皆さんよろしくお付き合いをお願いします。なお、紙面の都合により、ではこの30年間に何をしてきたかを書けなかったのも、もし退職間近になって、もう一度書く機会が回ってきたら、それはその時に（もう回ってこないかな、笑）

CONTENTS

No.680 June, 2013

- 2 ようこそ
- 3 本県・全国で漁業者が集結
- 4 兵庫県漁業者決起集会開催!!
- 6 約2,500人が緊急支援を訴える!
- 8 JF高砂・JF荒井が合併しました
山田隆義氏が全漁調連会長に就任
吉岡修一氏が全底連会長に就任
- 9 JF神戸市がヒトデを駆除
- 10 洲本市水産まつり開催
(公社)瀬戸内海環保協 総会と特別講演会
- 11 新法人移行後、初の総会で前田会長が結束呼びかけ
摂津播磨地区漁協青壮年部連合会 通常総会を開催
- 12 「淡路の魚」のPR推進などさらなる活動展開を確認
平成25年度 淡路地区漁協女性部連合会通常総会・研修会
- 13 「水産多面的機能発揮対策」本格始動に向け
新「兵庫県豊かな海創生支援協議会」発足
平成25年度「JF共済」職員会議を開催
- 14 大輪田塾第9期生募集
平成25年度 ひょうご海の子作品展のご案内
- 15 兵庫JCC通信
- 16 旬に想う
大輪田塾だより



表紙の言葉

全国漁業代表者集会のデモ行進

アベノミクスといわれる景気高揚政策の一環による円安の状況は、さらなる燃油価格高騰を招き、全国の漁業者を窮地へと追いやっています。全国で「沖へ行けない」という漁業者の声を広く国民に知ってもらうべく、緊急の大会や一斉休漁が行われ、29日には東京で全国漁業者代表者集会が開催されました。魚価の低迷、資源の減少など問題は山積していますが、漁業者にとって、まずは「沖に行く」ことが大事なのです。

燃油高騰の窮状を訴える！

本県・全国で漁業者が集結

実効ある支援対策を求め



アベノミクスとよばれる景気浮揚政策に端を発した急激な円安は、日本経済のデフレ脱却に向けた流れとして、一部には歓迎する声が上がっています。

しかし一方で、この円安は、さらなる燃油高騰という状況を生み出しています。JF全漁連によれば、為替が1円円安になると、燃料費は1キロリットルあたり約700円上昇し、昨年11月末から進んだ円安で1キロリットルあたり約1万5千円の上昇となっているとしており、我々漁業者は極めて深刻な状況に晒されています。

魚介類の消費低迷、価格下落に歯止めが掛からない状況に加え、数年前から続く燃料費の高止まりは、いっそう漁業経営を圧迫し、漁業者による光熱費削減や減速走行など取り組みを上回る今回の価格高騰は漁業者の自助努力の限界をとうに超え、廃業する人も出ています。

このような漁業の危機的状況に対し、国に有効な施策を求めるとともに、広く世間に訴えようと、各県漁連・漁協では緊急決起大会等を次々に開催しました。

5月17日の大分県を皮切りに、20日の宮崎県に続き、本県は25日(土)に淡路市の

淡路夢舞台国際会議場にて「漁業の存続を図るための緊急政策実現を訴える」兵庫県漁業者決起大会」を開催し、県内から漁業者・関係者らあわせて約850人が集まりました。

JF全漁連(服部 郁弘会長)は5月29日に東京で「我が国漁業の存続を求め全国漁業代表者集会」を開催し、全国から約2,500名が参加し、デモ行進を行いました。同日には県内3カ所で、県民・消費者の理解を求め全国一斉街頭宣伝活動の一環として、漁業者らによる活動が行われ、燃油高騰への理解を求めチラシを「兵庫のり」とともに配布しました。

今月の拓水では、4ページに亘り、本県と全国の集会の様をお伝えします。



届け！ 兵庫漁民の声！

「～漁業の存続を図るための緊急政策実現を訴える～ 兵庫県漁業者決起集会」開催！



5月25日（土）、県内漁業協

同組合とJFグループ兵庫水産政策協議会、兵庫県漁協青壮年部連合会、兵庫県漁協女性部連合会の主催による決起大会が、淡路市の淡路夢舞台国際会議場で開催されました。当日は県内全域から続々と漁業者らが訪れるなか、国会・県議員や県・市町の代表者をはじめ、水産関連業者も参加し、当初事務局は650人を想定していたところに約850人が集結し、平成23年10月の軽油課税免除措置を求めた明石市での大会以来の大規模集会となりました。

大会冒頭、JFグループ兵庫水産政策協議会 山田 隆義会長（JF兵庫漁連会長）は「燃油に加え資材等の価格が上昇しても、魚価は下落している。命がけで沖に出て働いても借金が残るのが現状であり、子どもに漁業を継がせる人がいなくなっている。国の財政事情も解るが、早急な対応を求めると挨拶。来賓の兵庫県 吉本 知之副知事は「漁業はコスト上昇を価格に転嫁できない流通構造であるので、燃油高騰対策については国と連携して進めていきたい」と表明され、末松 信介参議院議員（自民党水産部会長）は「燃油の問題は水産庁とも話をし、なかなか折



県内から続々と漁業者が集まり、会場へ…

り合わない現状だが、今後も皆さんの熱意を届けていきたい」、西村 康稔衆議院議員は「皆さんは何も悪くないのに、生活が厳しくなっている。まずは予算を付けることが必要である」と続けられました。このあと、他の国会議員、県会議員の方々からも力強いメッセージを頂き、最後に淡路市門 康彦市長が「漁業の危機的な状況を、現場である地元から国へ強い気持ちで声を上げていく」と話されました。



3階の別室にはスクリーンを用意



大勢の参加者で埋まる会場



田沼組合長（JF林崎）、川越組合長（JF浜坂町）が意見表明



JF全漁連 吉田 博身専務の応援演説の後の意見発表で、JF林崎 田沼政男組合長は「漁業は燃油が高くなつた分、魚価に反映できない。漁業者の知恵と技術は伝えていかないと途絶える。厳しい状況が続き、後継者が減り

最後に大角生馬会長をはじめとする県漁青連のメンバーが壇上上がり、参加者全員でこぶしを突き上げて「燃油高騰の緊急対策を実現せよ!」、「セーフティネット構築事業の抜本

続けるならば、漁業は衰退し、地域も衰退する」と危機感を示しました。続いてJF浜坂町川越一男組合長は「全国でもトップクラスの水揚げを誇る但馬の漁業であるが、近年、くやしーい想いをしながら廃業する仲間がいる。日韓暫定水域の問題で有力な漁場を失った我々は国策の犠牲者である。今回の燃油高騰で、国は再び漁業者を国策の犠牲にするのか。国は第一次産業を軽視し続けると、食料どころか食文化や地域の活力そのものを失うこととなる。漁業者が居なくなると、国として取り返しつかないことになる」と漁業の窮状を訴え、会場からは大きな声援と拍手が沸き起こりました。大会決議ではJF淡路島岩屋東根壽組合長が力強く決議文(案)を読み上げ、満場一致、会場の大きな拍手で採択されました。

大会決議(案)

長引く景気低迷の中で、消費の減退と魚価の低落に苦しんできた我々漁業者は、景気好転による消費の回復を何よりも待ち望んでいる。しかし、政府の景気浮揚政策に伴う円安の進行は、経費の多くを占める燃油価格を高騰させ、漁業経営を直撃している。

平成20年の燃油価格の異常高騰以来、漁業者は、省エネ、経費削減に取り組み、着実に成果を上げてきたが、この間も燃油価格の上昇は続き、これらの努力を全て呑み込み、無に終わった。

このような中、急激な円安による燃油等の高騰が漁業経営を傷み、余りにも短期間での経費の急増は漁業者自らの経営努力の限界を超え、出漁の断念のみならず、商業に追い込まれる経営体も出現している。政府は将来にわたって漁業者が安心して操業していくための抜本対策を講じる必要があり、何よりも今を乗り越えていかなければ将来はない。

景気回復の結果が漁業にもたらされるまでの間、漁業が存続し、水産食料の安定供給等の責務を果たすことができるよう、政府が責任をもって円安による燃油価格高騰分の緊急支援を講じることを県内漁業者の総意として強く求めるものである。

以上を決議する。

平成25年5月25日

— 漁業の存続を図るための緊急政策実現を訴える —
兵庫県漁業者決起大会

的改善を図れ!」、「兵庫の漁業を守るぞ!」とシュプレヒコールで力強く訴えました。



シュプレヒコールの熱気に包まれる会場

全国の漁師代表が東京・日比谷に集結!

約2、500人が

緊急支援を訴える!

5月29日(水)には、東京の日比谷公園においてJF全漁連(服部 郁弘会長)主催の「我が国漁業の存続を求める全国漁業代表者集会」が行われ、全国から約2、500人が集まり、燃油高騰による窮状を訴え、漁業が存続できるように緊急対策を求めました。

JF全漁連 服部会長は挨拶で「今回の燃油価格の高騰は、漁業者が行ってきた省エネ対策の努力を無にした。漁業の窮状を理解し、緊急支援を実現してもらいたい」とされ、続いて漁業者代表3名が登壇し意見表明を行いました。青森県小型いか釣漁業協議会 三國優会長は「やむにやまねず出漁していない。我々は漁に出たいのです」、全国底曳網漁業連合会の吉岡 修一会長(JF 底馬)は「今の燃油価格なら漁を休んだほうがまし。親から受け継いだ漁業を何としても続けたいが、漁業者による自助努力での解決は無理。セーフティーネット発動ラインを60円にしてもらいたい」、近海カツオ一本釣り漁業者(宮崎県JF南郷) 渡邊 義一氏

は「30数年前まで全国で300隻を超える仲間が今は60隻。もはや自力で今を乗り越えるのは困難」とそれぞれ意見表明をされました。大会はこのあと、緊急支援策を求める決議をJF全漁連 櫻庭 武弘副会長が読み上げ、満場一致の拍手をもって採択されました。

この日は多くの国会議員も参加されました。登壇した自民党 大島 理森水産政策推進議員協議会会長は「いままし政府との詰め時間が欲しい。最大限の努力をお約束する」とし、公明党 井上 義久幹事長は「緊急支援対策をもう一歩踏み込んだものにする必要がある」と、具体的な施策などは示されなかったものの、燃油高騰対策に尽力することを表明されました。最後にJF全漁連 多々羅 誠副会長らが参加者らとともに「燃油高騰対

全国からの参加者が詰め掛けた会場



策を実現せよ、「国は我が国漁業を守れ」などシブプレヒコールを上げ、プラカード、横断幕を手に霞ヶ関までデモ行進を行いました。

なお、デモ行進終了後、JF兵庫漁連 山田 隆義会長は国会議員会館を訪れ、燃油高騰対策に係る要望書を県内

選出議員に手渡し、今後、確実に緊急対策が実現されるよう強く要請しました。

(要望書を提出した議員)○衆議院…盛山 正仁、関芳弘、藤井比早之、谷公一、大串正樹、山田賢司、西村康稔、渡海 紀三朗、赤羽一嘉、濱村進○参議院…



国の有効な支援と国民の理解を求めて…



国会に向けて出発するデモ隊



全底連 吉岡会長の意見表明

我が国漁業の存続対策を求める決議

長く続いた景気低迷の中で、消費の減退と魚価の低値に苦しんでいた我が国漁業者は、景気好転による消費の回復を待たずとも自ら奮起している。しかし、景気浮揚政策に伴う円安の進行は、一方で、経費の多くを占める燃料・飼料価格を高騰させ、漁業経営を直撃している。

2019年の原油価格の高騰は、漁業者は、省エネ、経費削減に取り組み、着実に成果をあげてきたが、この間も燃料価格等の上昇は続き、この努力を全て呑み込み態にしていた。

そして、東日本大震災と原発事故による国内外にわたる風評被害は、さらなる深刻な消費の減退をもたらした。我が国漁業を危機的な状況に追い込んできた。

このような中、急激な円安による魚価等の高騰が漁業経営を襲い、余りにも短期間で経費の急増は漁業者自らの経営持続努力の域を超え、出漁の断念のみならず漁業にまで追い込まれる経営体も出現している。

国は、将来にわたって漁業者が安心して操業していくための根本的対策を講ずる必要があるが、即ち、今を乗り切らなければならぬ。

景気回復の効果が漁業界にもたらされるまでの間、我が国漁業・養殖業が存続し、生産資料の安定供給等の責務が果たされているよう、円安による原油価格高騰分の高騰を軽減することを全漁業者を代表して求めるとする。

以上、決議する。

2019年5月29日

我が国漁業の存続を求める全国漁業代表者集連



渡海 紀三朗衆議院議員 (自民党:兵庫10区)



関 芳弘衆議院議員 (自民党:兵庫3区)



鴻池 祥肇参議院議員 (自民党:兵庫県選挙区)



濱村 進衆議院議員 (公明党:比例近畿ブロック)

末松信介、鴻池祥肇、順不同・敬称略
 (山田会長が直接、議員本人に手渡した
 ときの写真の紹介です。)

おわりに

燃油高騰対策に係る一連の活動は、各県の集会から東京での全国漁業代表者集会へと展開されました。しかしながら、国からの具体的な内容は全国集会でも示されずに終わりました。JF全漁連発行の「全漁連情報1845号」には、全漁連 服部会長ら要請団が訪れた際の江藤 拓農林水産副大臣の言葉として「財務省とは思

切った交渉をしている。緊急対策とあわせて、中長期的・未加入者対策など総合的な対策が必要。限りなく100点に近づける努力をする」があったとしております。今後、喫緊の支援対策に加えて、アペノミクス以前において、既に燃油価格は高騰した状況であったことから、抜本的な漁業支援策が打ち出されることを期待しています。

▶神戸umie前の様子



◀神戸大丸前の様子



▶明石駅での様子



また東京での集会と併せて、全国で燃油高騰による窮状を訴える街頭宣伝活動が行われました。本県では神戸市、明石市で行われ、漁業者や、漁青連、女性連のメン

バーに加え漁協・系統団体が用意された約3,000枚のチラシを「兵庫のり」と共に配り、道行く人たちに燃油高騰対策への理解を求めました。

JF高砂・JF荒井が合併しました

6月1日（土）、高砂漁業協同組合（松本力組合長）と荒井漁業協同組合（木村巍組合長）が正式に合併し、新生「高砂漁業協同組合」が発足しました。

漁獲量の減少、組合員の高齢化等、組合経営を取り巻く環境が厳しくなる中、高砂地区の両JFにおいても組合員の負託にこたえるべく合併についての話し合いがなされてきました。今年3月に合併仮契約を調印した後も、合併に向けた協議を重ね、組合員・役職員の皆さんのご尽力により、この度、実現することができました。新しいJF高砂は、組合員数73名（正組合員・57名、准組合員・16名）となり、松本力氏が代表理事組合長に就任されました。また、旧JF荒井は支所となります。

なお、今回の合併に伴い県下の組合数は39となりました。

高砂漁業協同組合
本 所
〒676-0033
高砂市高砂町材木町1198
電話・079（442）0278

荒井支所
〒676-0008
高砂市荒井町新浜1-1750
電話・079（442）7464

※新JFの連絡先は、本所は旧JF高砂、荒井支所は旧JF荒井と同じです。

山田隆義氏が 全漁調連会長に就任



5月16日（木）、全国海区漁業調整委員会連合会は東京で総会を開きました。そのなかで新しい同連合会長として山田隆義氏（JF兵庫漁連会長・兵庫県瀬戸内海海区調整委員会会長）が選出され、同日に就任されました。同連合会は、全国72ある海区漁業調整委員会が組織する団体で、海区漁業調整委員会の適切な運営と使命の達成を目的に、国に対する要望活動、漁業振興対策の調査などを行っています。なお、任期は平成25年5月から平成27年5月までとなっています。

吉岡修一氏が 全底連会長に就任

全国底曳網漁業連合会（全底連）は、5月24日（金）、東京・港区の航空会館で平成25年度定時社員総会を開き、任期満了により大倉重信会長が退任しました。同日の理事会で、同連合会の吉岡修一副会長（JF但馬組合長・兵庫県機船底曳網漁業協会会長）が新会長に選任されました。



速報

森武美氏が全国女性連会長に就任

6月13日（木）、全国漁協女性部連絡協議会は東京で総会を開き、新会長として森武美氏（兵庫県漁協女性部連合会会長）が就任されました。なお、詳しくは来月の拓水7月号（No.681）でご紹介いたします。

大量発生するヒトデの原因究明を…

JF神戸市がヒトデを駆除

(財)兵庫県水産振興基金

JF神戸市（山田 隆義組合長）は近年、大量発生するヒトデを、操業時に海に返すのではなく、陸に揚げて調査することも駆除を行う取り組みを一昨年から行っています。5月17日（土）には、同JFの漁業者が一斉に

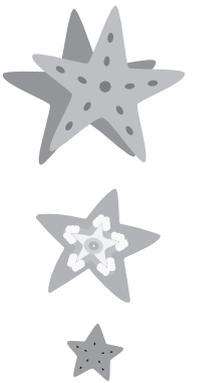
ヒトデを持ち帰り、天日干しにしました。

同JF河本 勝博参事によると、当初は朝市開設の長田港にヒトデを回収する水槽を設置し、普段の操業で入ってくるものを回収し、職員が垂水漁港へ運搬し干していたのが始まりだそうです。その後、ヒトデの大量発生が、魚や二枚貝に影響を与えているのではという漁業者の声を受け、NPO法人 須磨海産生物調査研究所（代表理事 佐名川 洋之氏）と同JF底曳網協議会が検討した結果、大量発生の原因を探るべく、まずは神戸の海域の生物調査として、底曳網にヒトデが混獲されたときの魚介類の名前、数量のほか、操業海域の緯度・経度を記録する活動が進められてきました。

今回はヒトデが産卵するこの時期にあわせて、通常操業する海域で、底曳網漁業を行い、混獲されたヒトデを駆除するというもので、東須磨地区、駒ヶ林地区をはじめJF兵庫（糸谷 安一 組合長）の協力も得て、15隻の漁船が参加しました。今年のヒトデはやや少



次々とヒトデの入った水槽が開けられていきます

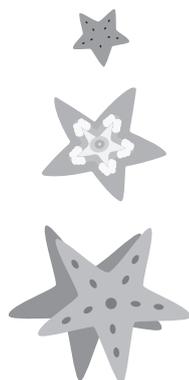


ないという情報もありましたが、朝から約5時間の操業で、水揚げされたヒトデは約2トン弱。水揚げ後は、垂水漁港に運ばれ、漁業者らの手によって地面に上げられました。今回、駆除したヒトデは天日干し・塩抜きされたあと、処分されるということです。

この日のヒトデの種類はマヒトデ（キヒトデ）、トゲモミジガイ、イトマキヒトデなどが確認され、参加した同研究所のメンバーはサンプル採取のほか、混ざっていたカニやエビなどの調査も行いました。関係者によると、ヒトデは肥料にされるほか、農家の方が



ヒトデの駆除は今後も続きます



シカの撃退のため紐でぶら下げるなど有効利用されています。なお、調査で集めたデータは2〜3ヶ月に一度公表しています。南日本に生息するヒメコトヒギが大阪湾で確認されるといったこともあり、関係者は一般市民に大阪湾の底生生物について関心を持ってもらい、環境保全活動に繋がりたいとしています。

同JFは、今後も調査活動を継続し、ヒトデ大量発生の原因究明とともに、効果的な対処方法の開発に期待を寄せています。

洲本市水産まつり開催

洲本市林務水産課

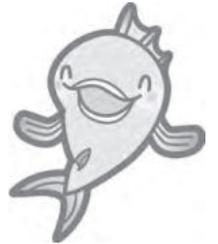
新鮮な魚介類を味わう「洲本市水産まつり」が5月4日（土）、洲本市由良町由良のエトワール生石周辺で開催されました。このイベントは、市内の漁協などで行う実行委員会が漁業を通じて街を活性化しようと呼びかけられているもので、今年で4年目となります。会場では、ハモの味噌汁が無料で振舞われたほか、朝獲れの新鮮なタイやタチウオなどの販売に長蛇の列ができました。また、いけす釣りコーナーではガシラやメバルを釣り上げるなど大勢の家族連れや観光客ら約7,000人が水産まつりを満喫しました。



大人気だった朝獲れの魚の販売



いけす釣りコーナーでは子ども達の歓声が聞こえました



の再生を図ること。人の営みの中で育まれた自然であり、そのフィールドを今のうちにいかに保全再生し次代に繋げるかということ」としたうえで、「5年前から140万署名をもって新しい法案を作っ



藤原名誉教授の講義風景

公益社団法人 瀬戸内海環境保全協会（代表理事会長・兵庫県知事井戸敏三）は5月22日（水）、神戸市内のラッセホールで定時総会を開き、平成24年度事業及び決算報告、会費の決定など6議案が総て原案通り承認されました。冒頭挨拶で井戸会長は、栄養塩の低下によるのりの不作や藻場の喪失、白砂青松の瀬戸内海に変化が出てきていると前置きされ「今求められるのは、水質本位だけではなく、直島のように美術文化を含めた美しく豊かな海であり、里海概念をもって瀬戸内海

ち「海域の物質循環健全化計画（ヘルシープラン）」と瀬戸内海の今後のあり方について」と題して京都大学 藤原 建紀名誉教授による特別講演会が開催され、関係府県の産官関係者ら約120名が参加、本県漁協関係者も10数名が参加しました。講師は、播磨灘北東部をモデル地域に実施されたヘルシープラン策定検討委員会の検討結果を説明され、「産官学関係者に現況と環境健全化へ共通認識が深まってきていることを確信した」と締めくくられました。

豊かで美しい瀬戸内海を後世に…
栄養塩類や生物多様性など課題に取り組む
（公社）瀬戸内海環境保協 総会と特別講演会

（財）兵庫県水産振興基金

沢山の後継者に出会い
豊かな海と安心して生業できる漁業を残したい！

新法人移行後、初の総会で

前田会長が結束呼びかけ

一般財団法人 淡路水交會

公益法人制度改革に伴い、本年4月、新たに第一歩を踏み出した「一般財団法人 淡路水交會」（前田 吉計会長）は、6月3日（月）洲本市内のホテルで第一回通常総会を開き、19会員漁協の代表者や県議会、行政機関、系統団体からの来賓出席者ら40名が出席しました。

審議に先立ち、前田会長は「一般法人として初めての総会であり、改めて皆さんに引き続き運営協力をお願いす

る」としたうえで、「島の周辺で藻場

が育っているように思うが、水温など環境が不安定でシラス漁も遅れ気味。

燃油高騰で出漁を見合わせる漁業者も

多い。そのようななか、先日、淡路漁

青連の総会に出た折、淡路にまだこん

なに沢山の若い衆がいる」ということ

を再確認した。この若者達に豊かな海

と将来ともに安心して生業出来る漁業

を引き継げるよう、我々でしっかり支

えていきたい」と挨拶。続いて、永

田 秀一県議会議員、藤澤 崇夫県洲本

農林水産振興事務所長、山田 隆義 J

F 兵庫漁連会長がそれぞれ来賓を代表

し祝辞を述べられました。総会は西尾

満義 JF 浅野浦組合長を議長に選出

し、平成24年度事業及び収支決算報告、

役員の新補充選任など総ての議案が原案

通り可決承認された後、社領 弘副会

長（JF 一宮町組合長）が閉会の挨拶

を終了しました。

通常総会を開催

～新規会員（JF西二見青年部）を迎え、14会員に～

摂津播磨地区漁協青壮年部連合会

5月25日（土）、淡路市での「兵庫県漁業者決起大会」（4・5頁参照）終了後に、淡路国際会議場会議室において、摂津播磨地区漁協青壮年部連合会（大角生馬会長）は平成25年度通常総会を開催し、会員、系統団体、行政などの関係者約30名が集まりました。総会開会にあたり大角会長（JF坊勢）が挨拶、続いて、来賓を代表し兵庫県立水産技術センター小田垣 寧水産業専門技術員と、JF兵庫漁連 山口 徹夫専務が祝辞を述べられました。

総会では、平成24年度事業報告及び収支決算、平成25年度事業計画、「ガザミふやそう会」の運営・計画のほか、新たにJF西二見青年部（松本 久進会長・会員8名）の入会希望などの案件が審議され、全て承認されました。

漁業を取り巻く状況は厳しいですが、新たな仲間を迎えて、今後の同会の頑張りが期待されています。



挨拶に立つ大角会長

「淡路の魚」のPR推進など さらなる活動展開を確認

淡路地区漁協青壮年部連合会



田原課長役の講演

5月31日(金)、洲本市内のホテルで、淡路地区漁協青壮年部連合会(18会員)部員計290名の平成25年度通常総会が開催されました。中村高治会長(JF由良町)の挨拶、来賓紹介に続いて、山口真臣副会長(JF仮屋)を議長に議事が進められ、平成24年度の事業報告、平成25年度事業計画などの議案が審議・承認されました。新年度事業計画として、栽培漁業・資源管理型漁業の推進、環境保全への取り組み、「淡路の魚」のブランド化など7つの重点事項を実施することが確認されました。

総会終了後の学習会では、JF全漁連 購買事業部 田原実課長役より「里海の物質循環について く貝殻利用技術について」と題した講演がありました。人の手を加える「里海」活動によって生物の多様性が高まるとされ、貝殻をつかった魚礁「JFシェルナース」の機能や実用例、効果等について分かりやすく講演して頂き、参加者は熱心に聴き入っていました。

5月25日(土)、淡路市の淡路夢舞台国際会議場にて、平成25年度淡路地区漁協女性部連合会通常総会が開催されました。11会員のうち、10会員(1委任状)26名と県洲本農林水産振興事務所 長島浩主幹兼課長、(一社)淡路水交会 前田吉計会長、JF兵庫漁連 山口徹夫専務はじめ来賓10名の出席のもと、平成24年度事業報告及び収支決算、同25年度事業計画及び収支予算、役員任期満了に伴い新役員が承認され滞りなく終了しました。

総会の後、天然石けんのエスケー石鹸株式会社 鈴木浩二氏を講師に迎え、「わかしおせっけんは海をまもる」をテーマに、合成と合成洗剤の違いをテーマに、合成洗剤と天然石けんを比較した映像などを見て家庭で取り組める環境改善について学習しました。

魚(アジ)を使った実験の映像では、天然石けんを投入した水槽では白濁してモアジは生き続けていましたが、合成洗剤を投入した水槽では白濁してモアジは生き続けていませんでした。

淡路島では天然石けんの推進運動が盛んですが、まだ普及の余地があります。長く愛顧されている洗濯用の粉石けんはもちろんです。ボディソープやみがき粉、最近では食器洗い機専用の洗剤や洗濯槽用クリーナーなど新たなジャンルが製品化されていることも説明され、女性部の皆さんの関心はとて高く熱心に受講されました。

(新役員のご紹介…順不同、敬称略)

- 会長 森武美 (JF福良・再任)
- 副会長 松帆悦子 (JF淡路島岩屋・再任)
- 山本智代美 (JF南あわじ)
- 理事 西尾恭子 (JF浅野浦)、藤江恒子 (JF育波浦)、山本秀美 (JF南淡)、坂上すみ代 (JF沼島)
- 監事 福岡美奈子 (JF津名)、原悦子 (JF仮屋)、岡田幸子 (JF森)



平成25年度 淡路地区漁協女性部連合会 通常総会・研修会

淡路地区漁協女性部連合会

剤を投入した水槽でアジが死んでいく映像を見て、参加者はまず家庭から生活の場である海を守ることに励むことを学びました。



▶鈴木講師の講演

「水産多面的機能発揮対策」本格始動に向け 新「兵庫県豊かな海創生支援協議会」発足

兵庫県豊かな海創生支援協議会

かねてより水産庁において計画づくりを進めておりました「水産多面的機能発揮対策」（拓水3月号に関連掲載）に係る事業予算案が、5月15日（水）の国会で成立したのを受け、本県では、21日（火）に県、関係14市町、JF兵庫漁連、（公財）ひょうご豊かな海づくり協会、財兵庫県水産振興基金の関係者が水産会館に集まり、新たな協議会の設立総会を開催し、規約等を決定しました。29日（水）には、本事業実施地域協議会として水産庁から設立の承認を受け、事業実施のスタートを切りました。

本県（沿海部）では、58組織（11市、3町）が同事業に参加する予定で、事業の主な取組みとしては、干潟等の保全（浅場の海底耕うん）、教育と啓発（食育）、魚食文化等の伝承（魚食普及）、漂流、漂着、堆積物等の処理（海岸、海底清掃）、水域の監視、海難救助等の機能（救済活動、通信網の構築等）があり、平成25年度で2億円を超える予算規模（国の事業予算35億円）となっています。漁業生産が



低迷する中、この事業に寄せられる期待は、国、関係機関はもとより、参加者である漁業者の皆さんにも極めて大きなものがあります。

今後はヒアリング、臨時総会を経て、実施計画の採択を行った上で、本格的な活動の実施となります。同協議会では、この活動がスムーズに開始できるよう、関係機関や参加者に協力を呼びかけています。

平成25年度「JF共済」職員会議を開催

共水連兵庫県事務所

兵庫県JF共済推進本部（共水連）は、4月26日（金）神戸ポートピアホテルにおいて平成25年度「JF共済」職員会議を開催しました。

当推進本部（共水連）では、毎年4月に組合の管理職員並びに実務担当者を対象に一年間の活動報告及び次年度の活動計画等について報告しており、今年度は、県下24共同事業組合の職員など総勢42名の出席がありました。

会議の冒頭、吉岡 修一（JF但馬）に代わって磯田 政志所長が挨拶し、まず、4月13日に淡路島で発生した地震で被災された方々にお見舞いを申し上げた後、厳しい共済事業環境の中にあつて一年間鋭意推進活動にご尽力いただいたことに対して感謝の言葉を述べ、平成25年度においても昨年度と同様、より多くの組合員への普及推進活動を通じて、各組合の数量目標の必達と共済事業実施基盤のさらなる強化を図っていくことを要請しました。

引き続き第2部の研修会では、日本レストランエンタプライズ上野営業支店次長（セールズアドバイザー）の三浦由紀江氏を講師に招き「仕事は楽しく、自分に限界をつくらない」と題して講演が行われました。時給800円のパートから年商10億円の力リスマ営業所長になった実践的な28の言葉が紹介され、参加者は各々の職場環境や自らの職務に照らし合わせて傾聴していました。

研修会終了後の懇親会では、実務者同士の情報交換が行われ終始和やかな雰囲気の中で閉会となりました。



三浦氏の講演

大輪田塾 第9期生 募集しています。

平成17年に開講された「大輪田塾」。めまぐるしく変化する社会・経済情勢に対応し、将来にはJF組織を支えていける人材育成を目的に始まり、すでに卒業生は地域のリーダーとして活躍されています。

講義は、県・系統団体をはじめ多彩な講師陣による月1回の座学を中心に、外部研修や事務局が適当と認めた会議等も聴講できるといった幅広い知識の習得が可能なカリキュラムを組んでいます。

この「大輪田塾」では現在、10月に入塾される第9期生を募集しています。
皆様のご応募をお待ちしております。

◎応募資格

- ①原則として、漁業歴10年以上かつ45歳未満
 - ②原則として、JF関係役員歴10年以上かつ45歳未満
- のいずれかに該当する者で、所属する組織代表者の推薦を受けた者



現地見学 (JF神戸市)



講義の様子

◎在籍年限

原則2年(最長3年)

募集は8月末に締切、その後、面接を行い運営委員会の選考を経て、10月に入塾式を行います。(詳しい募集要領は各JF・団体宛に通知させていただきます。)

問合せ先(事務局) (財)兵庫県水産振興基金

〒673-0883 明石市中崎1丁目2-3 TEL 078-919-1331

平成25年度

応募締め切り 平成25年9月13日(金)

ひょうご海の子作品展のご案内

絵画・
作文

県下の小・中学生の皆さんに海を愛し、美しく豊かな海を守ることの大切さや漁業に関する関心と理解を高めてもらうため、「絵画」と「作文」を募集しています。
あなたの目から見た漁業や漁師さんのこと、漁港や市場の様子、そして海の様子など、「漁業」と「海」を自由な発想で表現してみてください。たくさんのご応募をお待ちしています。

応募方法

応募対象：県下の小・中学生
応募作品：絵画と作文の2部門

- 絵画 作品の大きさは60cm×45cm以内(四つ切推奨)
- 作文 400字詰め原稿用紙2〜3枚

※本人の直筆でない作品については、審査対象外としますので、留意ください。
程度/小学2年生は1〜2枚程度/小学3年生以上は2〜3枚程度

提出先：作品は、通っている学校、または直接提出してください。

- 作品の裏面右下に、必ず応募票を貼ってください。
- 作品はこれまでもどこにも応募していないもので応募してください。
- 応募作品はお返しいたしません。

(応募作品の著作権はすべて主催者側に帰属するものとします。)

入賞

- 兵庫知事賞 全作品の中より1点
- 兵庫県教育長賞 同上
- JF兵庫漁連会長賞 同上

全作品の中から計2点

- JF兵庫女性連会長賞
- 農林中央金庫大阪支店長賞
- JF兵庫信漁連会長賞

同上
同上
同上

応募者全員に
記念品を贈呈します。

※予期なく変更する場合がございますのでご了承ください。

(お問い合わせ)

JF兵庫信漁連
(営業部企画推進課：担当水橋)
〒673-0883
明石市中崎1丁目2番3号

TEL 078-919-1121
FAX 078-919-1121

【主催】 JF兵庫漁連

【後援】 JF兵庫女性連

- JF兵庫信漁連
- (財)兵庫県水産振興基金
- 共水連兵庫県事務所
- 農林中央金庫大阪支店



「第57回通常総会」を開催 兵庫県農協青壮年部協議会

兵庫県農協青壮年部協議会は4月24日（水）、県農業会館で「第57回通常総会」を開催しました。総会には各青壮年組織の代表者、事務局など総勢23人が出席しました。

総会では、地域社会に根ざした活動の展開を目的とし、食農教育活動への取り組み、青壮年組織間の情報共有と相互協力体制の構築、青年部による政策提言集「青年部ポリシーブック」の見直しと青年部としての政策提案などを2013年度活動計画として可決しました。

また、総会の中ではTPPに対する特別決議として、「TPP交渉が現在の枠組みで行われている以上、TPPから食と暮らし・命を守る運動を展開し、地域農業を守り発展させる政策の実現に向けてさらなる要請活動を実施する」ことを採択しました。

新役員は、委員長に水澤辰也氏（JA兵庫六甲西神戸農業経営者協議会）、副委員長に尾栢稔氏（JA兵庫六甲三田地域青壮年部）、監事に吉岡亮氏（JAたじま豊岡青壮年部）が選任されました。水澤新委員長は「県内青壮年部の全盟友と結集して、食農教育活動をはじめとした組織活動に取り組んでいきたい」と今後の抱負を語りました。



2013年度県青協役員の水澤委員長（中央）、尾栢副委員長（右）、吉岡監事（左）

<http://ja-grp-hyogo.ja-hyoinf.jp/>

「第5回大規模災害対策 学習会」を開催

3月27日（水）、兵庫県民会館にて「大規模災害対策学習会」を開催し、10生協から18名が参加しました。「阪神・淡路大震災」そして「東日本大震災」の教訓をふまえて、災害対策やBCP（事業継続計画）策定マニュアルの作業がすすめられています。今回は「～来たるべき災害へ“考え”“備え”“守る”～コープこうべのBCP策定報告」と題し、コープこうべ 人事・教育・総務部 防災・事業継続 統括 戸田 拓也氏より、平常時の備えとBCPに基づく訓練の必要性や、普段使っているものを災害時にどれだけ活用できるかを工夫することの大切さが語られました。また参加者からの報告では「初動体制を含めたマニュアルを作りたい」「BCP策定に着手しているが、マニュアルの情報量が多くなり、実際の行動ができるかが課題です」など、会員生協での取り組みを全員で共有しました。

続いて、兵庫県生活協同組合連合会 三宅 康平 専務理事より「日本生協連 2012年度全国震災対策検討会報告」が行われました。災害を防ぐことは出来ませんが、災害の被害を軽減することは可能です。巨大地震津波などの災害にどう備えていくべきか、ともに学び合う学習会になりました。



災害対策についての発言に聴き入る参加者



大規模災害への備えを学び合いました

<http://www.coop-hyogo-union.or.jp/>



旬に想う

写真と文
遊方子

肛門の病い

◆山田洋次監督の映画『なつかしい風来坊』はハナ肇と有島一郎の喜劇ながら泣かせる名作である。混み合う電車でハナが有島のため座席を空けさせて座らせようとする。有島は小声で断りを言うが、ハナは「何？痔かッ、あいつは痛えからな」と大きな声で喋る。無関心を装っていた乗客が、「斉にドッ」と笑う。ハナが立ち上がり「何がおかしいんだ、てめえたち」と叫ぶ。その一喝で笑いは静まる。「そうか、俺のオヤジも痔だった、大の男が痛てエ痛てえて」と大きな声で話すから、乗客は再びクスクス笑う。「痔」とは他人に知られたくない病氣イメージで、同情を呼ぶよりも思わず失笑を買うオカシイ病いだ。

◆痔は隠すから恥ずかしく、恥ずかしいからオカシイ病いなのである。又、死に至る病氣では無いため、笑いを誘う。背中や脇の下・耳の穴と同様、肛門は当人には見る事が出来ない。しかし、異常な程に敏感で、最も痛みを感じ易い部位だ。《痔》とは、そんな所に起る痔核（イボ痔）、裂肛（切れ痔）、痔瘻（ジロウ）の3大痔疾をい、患者の九割がイボ痔と切れ痔を病んでいるそうだ。切れ痔はケガであって子供や幼児にも起きるが、イボ痔は皮膚や粘膜が少し緩みシワになった所に起きるため、赤ん坊や小学生には起きない。成人が罹患する。

◆痔の痛さは並なものではない。肛門は直径3〜4センチしか開かないため、便が固過ぎたり太過ぎる場合にトラブルが起きる。又、下痢便や未消化便と一緒に強い刺激性の消化液がでないし、何度も紙で拭えば摩擦により炎症が起きる。これが切れる因になる。痔瘻は少し複雑で手術も難しいが、痔核や裂肛は日帰り手術が可能、肛門の皮膚は再生力が強いので治り易い。身内の者が痔核と判って手術を受けて完治した。悩まず迷わず、肛門科の受診を薦めたい。

◆夏目漱石の『明暗』は作者急逝により未完であるが、新聞連載の第一回冒頭は医者と患者の会話で始まる。話の内容から痔瘻に関する相談をしている事が判る。漱石自身も痔を患い、明治44年12月4日の実体験を会話に活かしている。手術後、麻酔が醒めた時、床を歩いても痛さに飛び上がったと夫人が記述する。この頃、漱石は妙な音のオナラをし「破れ障子」と自称、落款に「破障子」と彫って揮毫書に押印している。手術の日を回想し「秋風や屠（ほふ）られに行く牛の尻」という句がある。痔疾は、個人の体質や身体の構造・生活習慣・職業など、種々の要素が絡んで発症するため原因はよく判らないそうだ。重い荷を持つたり、飲酒で痔が出るというが、悪化因子だが発症の原因ではない。

大輪田塾だより

水協法と漁協の加工事業について

5月の大輪田塾は2回開講されました。

2日（木）は「水協法概要」と題し、県水産課組合指導係大石主査を講師に招き開講しました。

水協法（水産業協同組合法）の概要はもとより、法律の中に盛り込まれている協同組合の理念のほか、貸借対照表の見方などの解説もあり、塾生は協同組合について理解を深めました。

21日（火）には、場所をJF神戸市に移し、「漁協での加工事業について」と題し同JF河本勝博参事から講義がありました。同JFでの加工事業の歴史や現状について学ぶとともに、チリメンの加工工程を見学することも出来、漁協の加工事業について広く学ぶことが出来ました。

この後の大輪田塾

日時：平成25年6月25日（火）13時30分から
水産会館にて

講義：「漁船法概要」

「水産業における6次産業化とは」



JF神戸市の加工場を見学



水協法概要の講義風景